

日本あちこち河川遡行記（第 225 回）

大阪 1-4-2. 恩智川（その 2）平成 30 年 10 月 15 日（月）曇りのち晴

相生、姫路、大阪と乗り継いで近鉄に乗り換えるため鶴橋駅に降りると、乗り換え口の南側にホーム沿いにロッテリアが有ったので早めの軽めの昼を摂っておく。舞子時代に昼をよく摂ったチェーン店である。

前回の折り返し点の駅、奈良線東花園駅に降り立つ。駅南側の目の前に恩智川の土手が迫る。坂を上がり川が直角に曲がる所に架かる歩道橋から遡行を開始する。自動車は通行不可だがバイクは OK のようで数台のスクーターが速度を落とさずに狭い橋を駆け抜ける。ヤンママも電動アシスト自転車で駅にやって来る。平たんな地形に電動はいらないのだが・・・。

北からの流れが近鉄奈良線の橋を過ぎた所で直角に曲がり西からの流れとなり、この駅の裏で再度南からの流れとなる。目を南に転じれば遙か彼方まで一直線に川は伸びている。



01.近鉄東花園駅南の橋から開始



02.南北に一直線に川は流る

川の両側の土手道は自動車通行禁止なので遡行には有難い。右岸側の土手道には花壇も作られ気分よく進むと、所々に有る藤棚の下に設置してあるベンチにおまけが付いている。何だろなー、何だろなーと進むと 3 人のジイジイが持ち寄った酒とつまみで昼の宴会開催中！こんな所で宴会はエエンカイナ。桃園ならぬ藤園のお楽しみだ。粗大生ごみと扱われるので同志が集まって憂さを晴らしているのかな。



03. 藤棚の下には家財道具が、何じや所これ



04. 昼間から年寄りが酒盛りをする場だった

やがて先日の第二寝屋川の最終到達点の三差路にやって来た。今日は東側から西を見て第二に挨拶をしておく。「ね～や又来たよ」。



05. 第二寝屋川はここから西に向かう

先日は恩智川の西側の「治水緑地」を見たが、今日は東側もよく見える。両方の貯水容量は165万 m^3 もあり、流れ込む量により段階的に次の区画に流れ込む方式である。

過去の全体完成前の貯留状況の写真が付いている。仮にここまでの川の流域面積を50 km^2 (10 $\text{km} \times 5\text{km}$) とし、100mmの雨が降ったとし、雨の7割が川に流れ込んだとすれば、全体の川への流入量は350万 m^3 となりほぼ1/2の量を収容出来ることになる。



06.治水緑地は恩智川の両側に有るのだ



07.過去の貯留状況の写真が



08.東側（池島）の緑地



09.西側（福万寺）の緑地



10.どっちの方が低いかな

東側は池島遊水場で低い越流堤の上には堤とデザインを合わせた橋が架かっている。親柱には近くに有る遺跡にちなんだ勾玉が門番のように鎮座している悪霊を退散させる力が有る勾玉で洪水退散を願っているのだろう。

次の橋から北側を見れば恩智川の両側に家来が控えたように見られる。



10-1.勾玉の親柱が門番のよう



11.東側の越流部に架かる橋はゲー



12.両側に家来を付けて川は流る

今日も橋に来る度に右岸側と左岸側を行ったり来たりしながら橋を見て行く。北から南に磁石の方向通りに歩くので遡行兼生駒山系ウォッチングとなる。

東西に細長い校舎の高校を過ぎると地形図に「箕後川」と書かれた生駒山系からの川が合流点に来る。この川と恩智川と第二寝屋川の一部が東大阪市と八尾市の境となっている。非常に分かりやすい境界である。

八尾市上之島町地区に来ると工場の一角の道際に大きな石造りの観音像が立っておられる。その他にも地藏像や神仏の像が狭い所に密集しておわす。この世には神も仏も無いと言うことがあるが、ここは神仏のデパートでそんなことはおまへん！僅か1分で神仏混交の極致が味わえる。



13.工場の片隅に大きな石の観音像が



14.神も仏も全員集合だ

ここまで流れが有るのか無いのか分からなかった川に高低差が現れ川らしくなってきた。八尾市道の「薬師橋」は2本の主桁の間に道路が入り込んだ橋で、2車線の外側にわずかな幅の歩道が緑色で示されラバーコーンも設置されている。段差が無く歩行者が桁に挟まれる恐れがあるのだが・・・。



15.流れが分かる川になってきた



16.歩道部をラバーコーンで区分して・いるが・・・

ここまで真っすぐな南北の流れであったが少し東よりの流れに変わる。土手の外側の低い所に展開していた土地が少しずつ高まり、土手と同じ高さになり土手は無くなる。東山本地区に来ると川沿いの道の端に分かりやすい絵地図が掲げられている。上空から東の方を見た鳥の視点の地図である。すぐ横に水防組合の器具庫が有る。恩智川遡行にぴったりの絵地図やおまへんか！



17.面白い素敵な地図があった

直ぐに近鉄信貴線の橋が現れる。多くの路線を持つ近鉄の中でもその短い路線距離が際立つ信貴線で路線長はわずか **2.5km** で途中駅が1つの線である。終点の信貴山口からケーブルに乗り続けば「高安山」の南西部に着く。鳥獣戯画で有名な「朝護孫子寺」へは山頂からバスが通じている。かつては山の東側にもケーブルカーがあったが今は無い。



18.近鉄信貴線は単線の盲腸線

山からの流れが幾筋も合流し恩智川の川幅が少しずつ狭まってくる。水の透明度も高まり多くの生き物が浅い水の中にいる。合流点には多くの鯉が群れをなして泳いでいる。狭い川でこれだけの無数の鯉は生きていけないだろうから住民が餌をやっているのだろう。鯉の字は魚偏に里と書くが、深山幽谷では生きていけないのだ。亀も鴨もみんな元気かい。



19.生駒山系から幾筋もの川がここへ



20.亀の一群が甲羅干しの最中



21.黒い塊は何だ！



22.魚偏に里の字の鯉だった



23.鴨も居た居た

「高安」地区を越え大阪外環状線の国道170号も越えると「恩智」地区に入る。川名の元になった地区である。川名の読みは「おんち」であるが地名では「おんち」である。橋の名前にも「おんち」と彫られている。近鉄大阪線の駅名も「おんち」である。みんな「音痴」にならなくて良かった！



24.川名は「おんち」だが地名は「おんじ」なんだ

家並みが途切れ田んぼが随所に現れる。近鉄の線路も現れ各種の電車が通り過ぎていく。やがて聞き覚えのあるタイフォンの音が遠くから聞こえてくるハハーン、あの音は名阪特急だな。やがて欧風のデザインの真っ白な特急が駆け抜けて行く。名古屋～大阪間で何度も乗った特急である。無機質なのぞみよりも温かみの有る特急車だ。



25.名阪特急が駆け抜けていく

八尾市から柏原市に入ると「法善寺」地区である。再び集落が密集し川幅が一段と狭くなる。ここが潮時と遡行をここまでとして駅に向かう。ここの法善寺には水掛不動も横丁もありましえん。マンホールの蓋を探したが駅までの短い距離では見つからなかった。区間準急に乗り鶴橋駅に向かう。今日は50もの橋を見たが、またまた記録更新だ！



26.水掛不動はいらしゃいませんヨ

本日の歩行距離：8.8km。調査した橋の数：50。
総歩行距離：10,111.5km。総調査橋数：12,609。
使用した 1/25,000 地形図：「信貴山」（和歌山 5 号-1）